

柴田明德先生 日本建築学会大賞受賞

杜春会会長（23 回生）源栄正人

このたび柴田明德先生が、「構造動力学の研究・教育と耐震工学の発展への貢献」により 2014 年日本建築学会大賞を受賞されました。杜春会一同お祝い申し上げますとともに、直接ご指導いただいた後進としても大変な喜びを感じております。

柴田先生は、1965 年に東京大学で学位を取得し、東北大学助手に就任して以来、東北大学において耐震工学や地震工学に関する先駆的な研究と人材育成に努めました。その研究成果である「建築物の弾塑性地震応答に関する一連の研究」は 1986 年日本建築学会大賞（論文）を受賞されています。一連の研究の主題は、地震時における建築物の弾塑性応答の基本的特性の解明や、等価線形解析手法を用いた弾塑性応答の実用的な評価手法などです。特に、等価線形化法による建築物の地震応答解析に関する先駆的研究は、現在の限界耐力設計法の成立に大きな影響を与え、国内外から評価を得ています。

先生が執筆された「最新耐震構造解析」（1981 年 6 月森北出版）は、地震工学や耐震工学における振動理論や波動伝播理論という建築学で最も難しい学問をやさしく解説したものであり、大ベストセラーとなりました。この著書により、振動理論や地震工学のおもしろさを学んだ学生や技術者の数を考えると、先生の建築構造分野における教育貢献・社会貢献は著しいものがあります。このことが評価され、2009 年には「建築耐震構造の教育に関する長年の貢献」として学会の教育賞（教育業績）を受賞されました。加えて、同書の英訳版「Dynamic Analysis of Earthquake Resistant Structures」（2010 年出版）を執筆され、国際貢献も果たされています。

さらに、柴田先生は日本建築センターの「高層建築物構造評定委員会」委員や、資源エネルギー庁の「原子力発電技術顧問会」委員、「原子力発電技術機構安全解析事業運営委員会」委員などを歴任し、高層建築物や原子力施設の安全に対しても技術的貢献を果たされました。加えて、国土庁「国際防災の 10 年国民会議」運営委員や、宮城県防災会議地震対策専門部会委員、仙台市地震対策専門部会委員、宮城県建築住宅センターの「建築物耐震診断改修評価委員会」委員長など、国際貢献、地域貢献も積極的になされました。

先生の大賞受賞は、「建築学科」、都市・建築学専攻にとっても大変名誉であり、所属教員、学生の刺激になります。

ここに、先生のこれから益々のご健康をお祈りするとともに、後進へのご指導・ご鞭撻をお願いする次第です。